

在宅支援を通して、お年寄りの更なる安心感の提供へ

“在宅支援診療所向け集患ツール”

～最新の通信技術を活用した「在宅支援診療所&特定施設」遠隔ネットワークシステム～

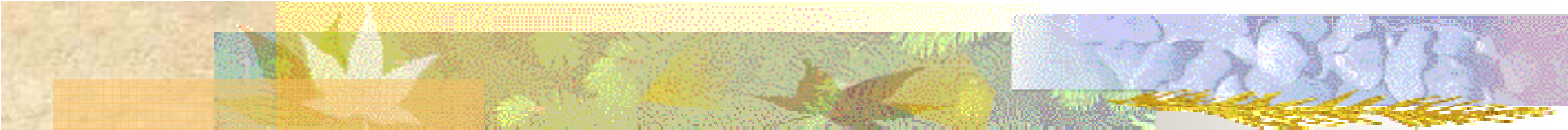
2007. 12

東芝ITコントロールシステム株式会社

システム支援:株式会社セーフティ・케어



Copyright 2007 Toshiba IT & Control System Corporation , All Right Reserved



はじめに

2005年末、厚生労働省は『介護療養型病床』を2011年度末に廃止する方針を固めた。療養型病床には医療保険適用の『医療療養型病床』と介護保険適用の『介護療養型病床』の2種類で、合計38万床。

『介護療養型病床』は現在13万床あり、医療や看護を必要としない(社会的入院)入所者が5割を占めていると言われている。また、医師・看護師の人員配置が特別養護老人ホームや老人保健施設に比べて手厚く、保険から支払われる報酬が高い為、介護保険財政を圧迫する要因になっていた。この廃止に伴い、介護療養型病床を経営してきた医療機関にとっては死活問題で『有料老人ホーム』、『老人保健施設』への転換を迫られることになる。

また、2006年度の診療報酬改定において『在宅療養支援診療所』が新たに設定・評価される事になった。つまり、患者にとって『在宅』が療養の場として最適であると国も認めたという事である。

『在宅復帰』『在宅生活支援』への移行を促している流れ、**介護施設の運営難の問題**を見ていると、今こそ**医療機関と介護事業所の力とのパートナーシップ構築**が必要になってくる。

介護業界の現状

介護施設(医療機関複合事業者を除く)の課題

- ・グループホーム・特定施設入所者の介護度重度化
- ・本格的な医療機関との提携を図りたい
- ・介護緊急対応時の支援をしてもらいたい

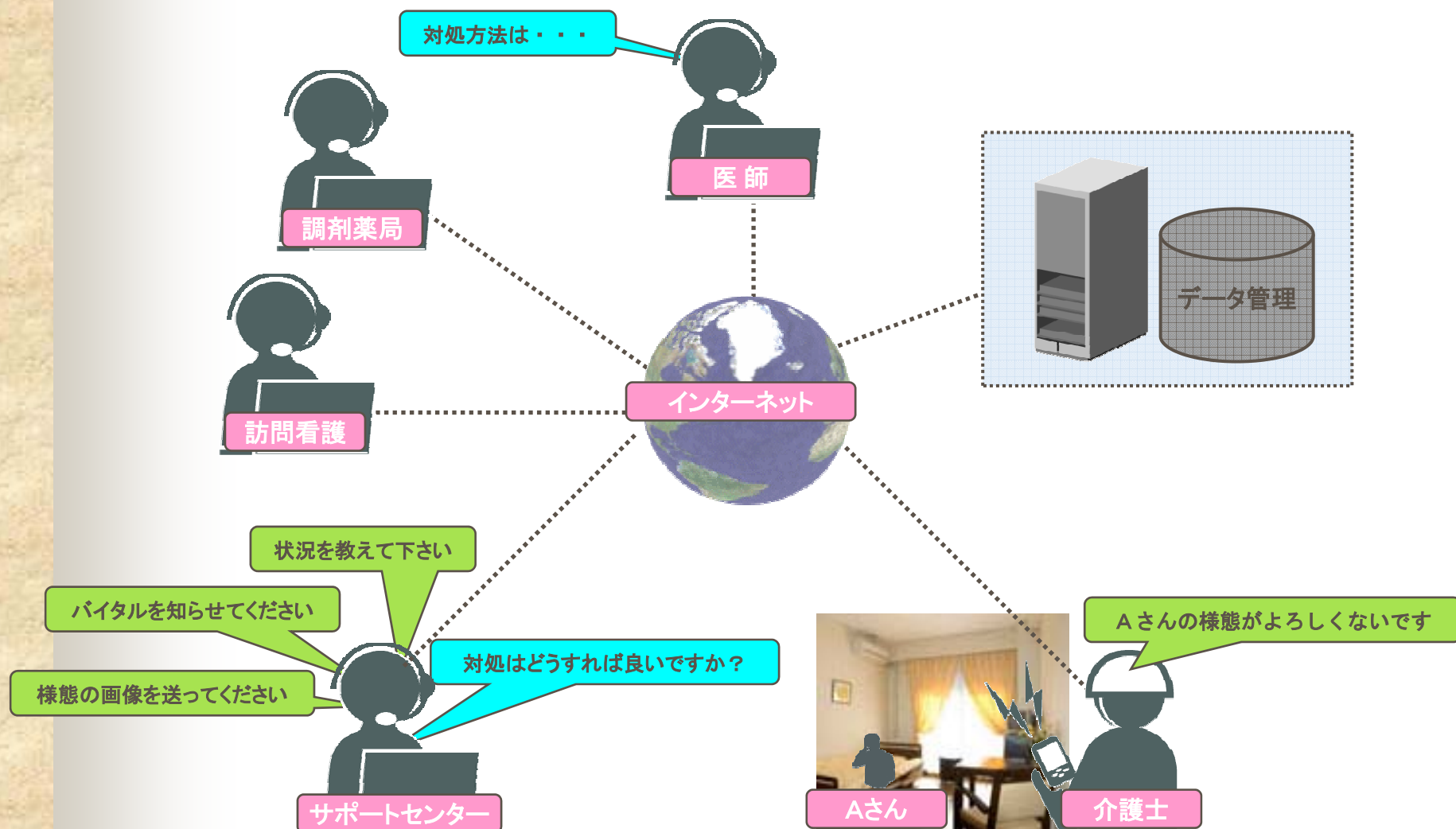


最新の通信技術を活用した遠隔介護診察システムの導入

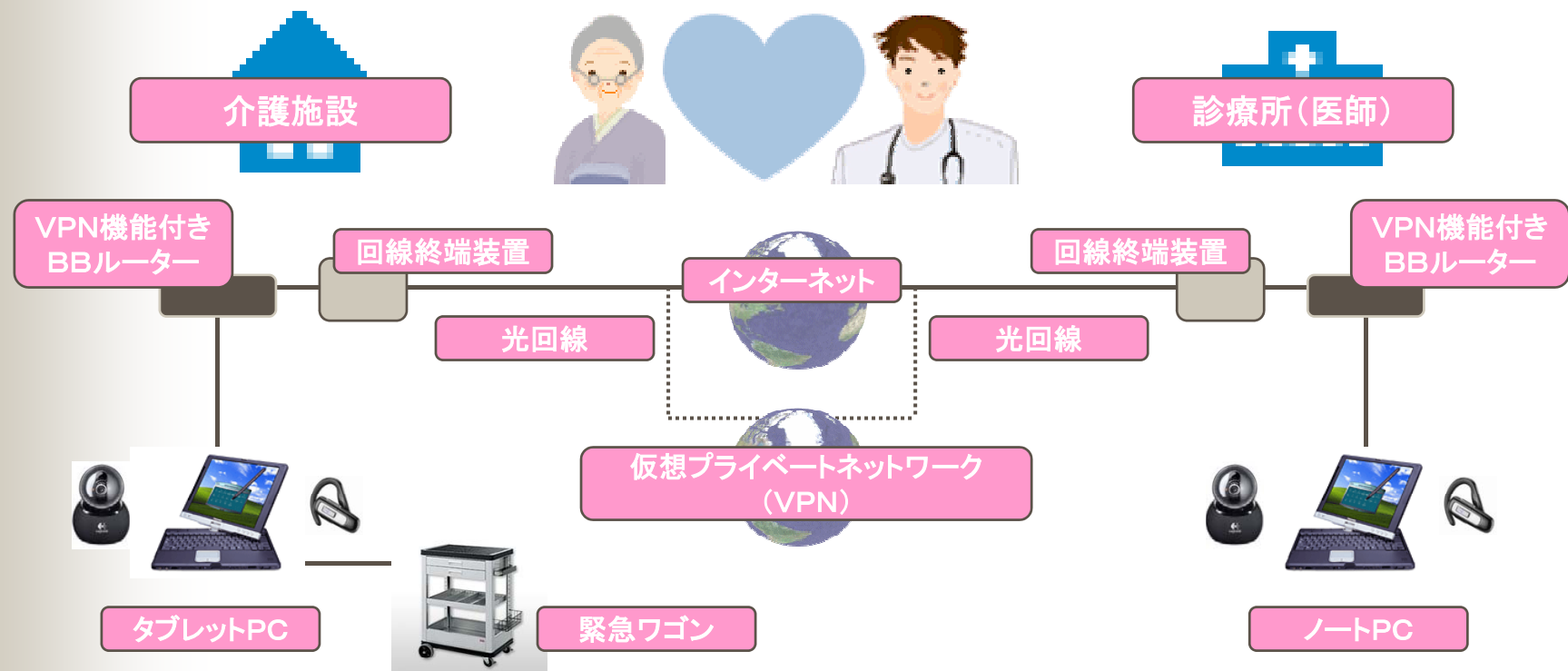
※『遠隔介護診察システム』は、利用者管理機能と利用者介護支援機能を統合した、施設単位のお客様(集患)を増進させるツールです。

本システム導入により、利用者(介護者)への更なる安心感の提供と、介護施設向けの運営支援が実現し、月2回の往診の付加価値が構築できます。
新しい概念の介護施設向け複合管理システムです。

遠隔介護診察システムイメージ



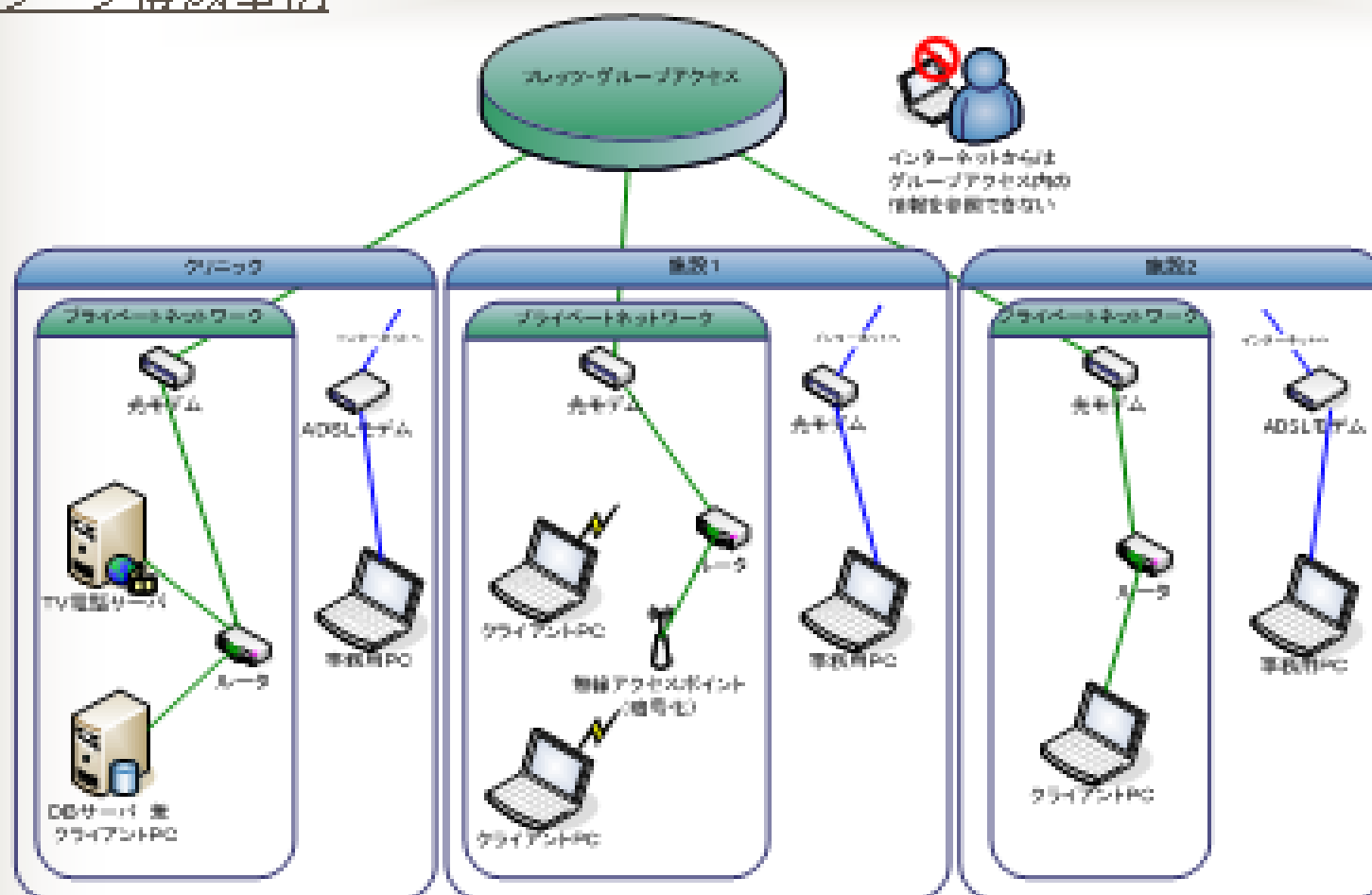
遠隔介護診察システム概要



※VPN (Virtual Private Network) とは・・・

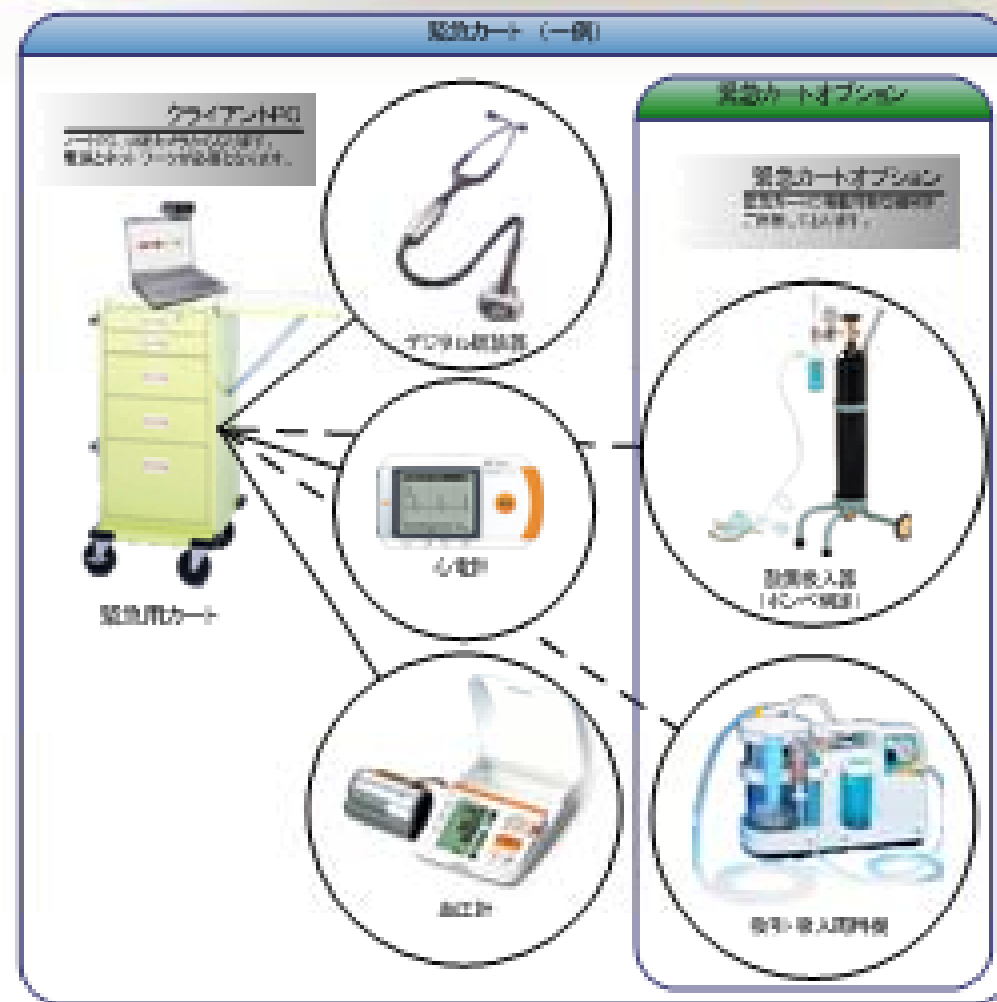
公衆回線をあたかも専用回線であるかのように利用できるサービス。専用回線を導入するよりコストを抑えられる。データは**認証**や**暗号化**で厳重に保護・管理されるため、混信や漏洩、などの危険性は低い。

ネットワーク構成事例

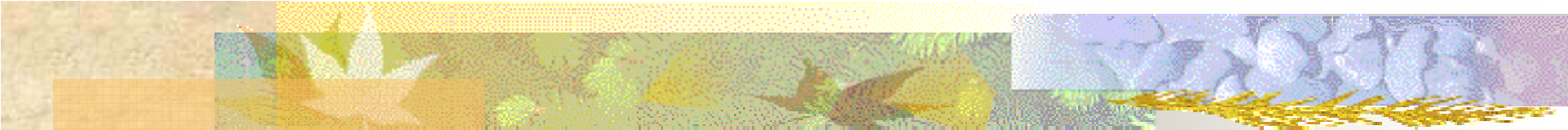


**Bプレッツとプレッツ・グループアクセスを用いることで、
VPNを構築し高速かつセキュアなネットワークを構成。**

緊急カート



緊急カートとクライアントPCを組み合わせ、
不意の緊急時にも即座に対応できます。



利用者管理機能と介護支援機能の統合

■利用者管理機能

1) 利用者情報

- ・氏名・性別・緊急連絡先など利用者の基本属性情報

2) 介護記録

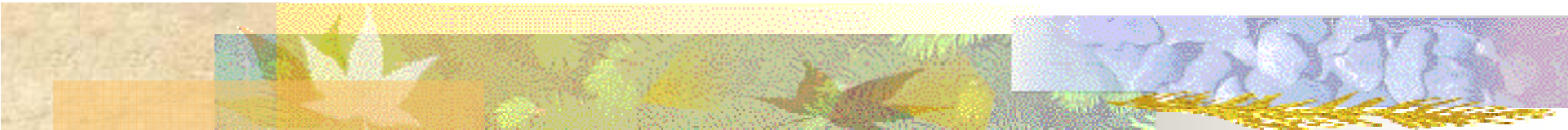
- ・介護履歴、入浴・清拭など日常介護情報
- ・転倒などの事故情報
- ・面会記録
- ・散歩・通所サービス利用情報など外出情報

3) 看護情報

- ・週間バイタル履歴(服薬履歴、処置情報)
- ・かかりつけ医者名(主治医・診療科医師)
- ・通院履歴

4) 施設情報

- ・住所・電話番号
- ・施設コード・施設名・サービス事業種類・緊急連絡用施設担当者情報など
- ・生活相談員・管理者・責任者など重要社員情報



利用者管理機能と介護支援機能の統合

■利用者介護支援機能

1) 夜間省人運営のための集中監視

- ・施設単位で、正常か正常でないかを一括表示

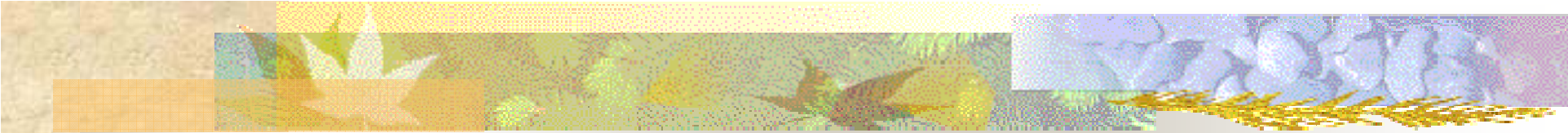
※正常でない事態

- － 介護緊急対応要請発生
- － 徘徊者発生
- － 離床者発生(長時間)

2) 介護緊急対応支援

- ・集中センターでの状況把握
 - － バイタルデータ
 - － 現場の画像・動画(痛がる様子、意識の様子、打撲・骨折の様子など)
- ・現場介護士との音声通話

システムを一体化させることによって、データベースの共有化が図れ必要な情報を的確に入手・確認することが可能になります



本システム導入効果(通常時)

- ・利用者のケース記録にドクターからの記録が反映されて、より詳しいケースが作成できる。
- ・ケース会議やご家族への情報開示もより詳しいものになり、ケアの品質向上が図れる。
- ・施設間のドクターと薬剤師によるデータ共有が可能となる。
- ・診療内容をケース記録に記入できるため、記入者名を医師名にて反映できる。
- ・調剤内容をケース記録に記入できるため、記入者名を薬剤師にて反映できる。

本システム導入効果(緊急時)

- ・特定施設で看護師が常駐している所では(緊急カートを利用すれば、医療器材を積んでいれば)、医師の指示である程度の医療行為(処置)が可能です。
- ・看護師が常駐していない所でも、訪問看護ステーションの看護師と連携すれば可能です。
- ・緊急カート搭載のパソコン画面(回転します)で入居者・家族が医師と直接会話も出来ます。
- ・介護職員の場合、医療行為を除いた医師からの対処的な指示を受ける事が出来ます。

**利用者・ご家族の方への更なる安心感の提供へ・・・
医療側・施設側のイメージアップにも繋がります。**